

# 石と一ん・さーくる

No.92

発行 新潟県石仏の会(代表 星野 紀子) 2015年6月15日 発行  
 事務局 〒945-0837 柏崎市三島町16-2 渡邊三四一 電話0257-22-1941  
 ホームページ <http://niigata-sekibutu.vox.jp>

石仏散歩

## 御前山雲台寺の石仏群

上越市 水島 健吾

五月連休に糸魚川の海谷溪谷に入った帰り、久しぶりに御前山雲台寺に立ち寄った。境内は残雪も多く、その上に杉の枯れ葉が散らばり、苔むした参道の石畳の崩れた様は将に荒れ寺の佇まいである。七世紀半ば、僧法道により創建、本尊の十一面観音立像は法道作とも伝わる。いつとき、寂れていたが明治初め再興され、現在、天台寺門宗、総本山園城寺の末寺という。背後に聳える駒ヶ岳との関連か、馬に御利益があるとされ、長野県小谷村や富山県からも馬を引いてお参りにきた。また八月晦日の盆踊りには三谷(根地谷、西海谷、早川谷)からも大勢参加してかなりの賑わいだったという。嘗て、大正十五年に相馬御風も泊り「どのもゆく、馬の足おと鈴のおと 夜はほのぼのと 明けてゆくらし」の歌を詠んでいる。御前山は古くから谷々を繋ぐ要衝の地で、塩の道の一つでもあり、多くの牛馬が歩いた。寺には旅の安全と牛馬への加護を祈って、馬頭観音を中心にくさんの石仏が奉納された(写真右)。観音堂手前には巨岩を穿って阿弥陀三尊が納まっている。(写真

左)しかし、無住の為か、なんと、三年前の春、本尊の十一面観音立像と脇侍が盗難にあってしまった。お堂前には観音様の還帰を願う板書き文が置かれ、入口には鍵が二個付けられている。本尊不在のお堂の軒下には達筆な崩し字の「施無畏」の大きな扁額が掲げられていて、「御前山観音堂」として、多くの人々の信仰を集めた証を今に伝えているようだ。後日、管理者の田原さんに確認すると、もう十五年程前から盆踊りもしていないとのこと。行く末はどうなるのか、石仏を奉納し



た人達と、残された石仏群に万感の思いが行き交う。



## 上越地区

### 見学会実施報告

たかし2015実行委員会



新年度各地区見学会のトップを切つて恒例の四月二十九日「緑の日」にふさわしい鮮やかな新緑の下、上越市高土区において見学会を実施しました。参加者は四十八名と定員（マイクローバス一台）を大幅に上回る沢山の方にご参加を頂きました。

#### ◆高土区の概要

当地区は上越市高田区の南東部、関田山脈から流れ出る櫛池川と飯田川に挟まれた扇状地に位置し、古墳時代後期から中世にかけての遺跡が多く、南北時代の板石塔婆が散在します。解説は建入定男実行委員長、青山増雄、水島健吾の各実行委員が担当しました。以下主な見学箇所をご紹介します。

#### ◆一石六地藏菩薩塔婆（高津）



高さ六〇cm、幅四七cmの大型の板石上に雲状の界線を置き、上部の三尊を小さく、下部の三尊を大きく浮き彫りにした来迎図を思わせる立派なもので南北朝時代の作とされています。

#### ◆守り地藏（飯田）

佐藤家に伝わる地藏菩薩で、江戸時代天領川浦代官所（現上越市三和区）の代官に女の子が生まれて同家に養女として

もらわれて来た時に守り刀と共に持参したといい、当時の幕府の役人と領民の関係が良好であったことを示唆しています。

#### ◆中気地藏（飯田）



南北朝時代の板石地藏塔婆で、中気にならない地藏様として祀られています。定印で蓮華座に安座しており本来は阿弥陀如来かとも思われます。光背の両肩部に縦に浅く穴が穿たれていますがその訳は不明です。元は信州境の富倉峠にあったとのこと。

#### ◆乳観音（飯田）

日月神社境内の堂内に祀られています。隣接三和区産出の大光寺石を用いており南北朝時代の高津城下から出土したものです。一石三尊仏の頭がふつくと彫りだされており脇侍仏の頭部が乳房のように見受けられることから「乳

観音」と呼ばれるようになり、この地方に流布していた乳神信仰・子育て信仰と習合して土俗化したとみられます。

#### ◆塩釜神社（大口）

江戸時代後期になると峠越えて信州に入る間道が利用されるようになりました。大口は犀浜（関川河口の北東から柿崎までの海岸）で生産された塩が牧峠（ひるこ峠）を越えて信州に至るひるこ道と呼ばれるルート沿いであり、集落内の三叉路に二基の石祠が鎮座しています。峠道の登り口で行路の安手を祈願したのでしょう。

#### ◆山の神（大口）

尼寺の跡に建てられた集落の公民館の敷地に地藏菩薩と並んで置かれている神像は胸に斧を抱えており、樵（きこり）の守り神とみられます。近くの三墓山の山道に祀られていたものといえます。



#### ◆最光寺の石仏群（南方）

山寺三千坊（上越市板倉区）の一つであったという古刹です。当初真言宗後に天台宗。本堂でご住職のお話をお聞きしてから境内を案内していただきました。



参道沿いに曹洞宗の御法神白山妙理大権現、真言宗の開祖弘法大師像、廻国供養塔などが並び、地藏堂には三界萬靈塔と二組の六地藏、観音堂には十一面観音菩薩を中心に地域の方々からの寄進による百観音、天部、明王等の諸尊百九体が安置されています。

#### ◆岩の原葡萄園の石蔵（北方）



岩の原葡萄園の創始者川上善兵衛は瘦せこけたこの地に暮らす農民の救済のためにブドウ栽培とワイン醸造の事業を興し、本格的国産ワインの礎を築きあげ「日本のワイン葡萄の父」と呼ばれています。三和区産出の大光寺石が使用されたワイン熟成のための石蔵は日本最古で、国登録有形文化財となっています。こちらでは石蔵、氷室を見学、ワインの試飲や抽選会を楽しみ無事見学会を終了しました。ご参加いただきました皆様にお礼申し上げます。（文責 やまだ漫歩）

## 事務局だより



## ◇夏の二泊有志見学会のお知らせ

期日 8月22・23日(土・日)

テーマ 若狭小浜の地蔵盆を歩く

参加費 30000円くらい(参加人員により若干変動します)

定員 20名(貸し切りバス利用、集合等の詳細は別紙チラシ参照)

宿泊 サンホテルやまね(若狭湾の夕日に染まる温泉宿)

申込み 7月17日(金)までにハガキかFAXで事務局・渡邊まで

期日 9月26日(土) 10時～16時

テーマ 見附市の石仏を歩く

探訪地 元町・漆山地区の石仏―  
元町(海伝寺跡・総持寺・旧村松街道) 漆山(善久寺・天満宮・六本木)

集合 ①9時50分 JR見附駅前  
上り(長岡↓) 9時48分着  
下り(新潟↓) 9時44分着  
②10時 ネーブルみつけ(まちの駅・駐車場あり)

◇下越地区見学会のご案内(予報)

期日 10月26日(月) 10時～16時

テーマ 五泉市村松地区の石仏探訪

参加費 3500円(昼食代等含む)

定員 20名(集合等の詳細は次号会報でお知らせします)

申込み 10月5日までにハガキかFAXで左記へ

岩野筆子 〒959・2034  
阿賀野市緑町22・8  
FAX0250・62・0070

◇27年度総会が開催されました

去る5月10日(日) 13時～16時30分、今年度総会が長岡まちなかキャンパス(301)で開催されました。以下、概要を報告します。

第一部は公開講演会で、三国信一氏(県

立歴史博物館主任研究員)より「小正月行事と人々の認識―広域比較からの再検討―」をご講演いただきました。小正月に使用されるヌルデやアカメガシワ等の樹木利用を手掛かりに、九州や山梨など本県以外の事例も踏まえ、多くの画像を通してその民俗的背景を探る内容でした。参加者33名(一般1名含む)。

第二部の総会(参加21名)では、別紙のとおり平成26年度事業報告・決算報告が審議され承認。役員改選では新任として中越支部事務局に山崎利雄氏(柏崎市)が選ばれ、他の役員は留任となりました。続いて27年度事業計画(案・予算)(案)が審議され承認されました。

なお最後に、事務局総務から長年懸案の会費増額と新潟地区・下越地区の統合再編の二件について、今後会員の意見を踏まえ具体的検討を行いたい旨報告がありました。この件について皆様からのご意見をお待ちします。

◆編集後記◆

新年度がスタート。今年も新たな石仏、そして仲間との出会いを楽しみたいものです。

(上越地区事務局・やまだ漫歩)